

改革 21

渡部 一夫 議員

●市長の政治姿勢について



12市、近隣市町村との財政力指数等、財政状況を公表し説明することは重要である。今後も創意工夫を重ね適時の確に公表提供し説明する。

問 新市の職員削減計画は10年で140名である。この際退職減少分を補充せず、市民の感覚は前倒し削減である。採用方針の転換の考えは。

答 定年退職分の40%新採用が新市計画である。人員削減計画の早期実現は重要だが、最低限度の採用により早期実現を図り、空白期間を作らない方法が妥当と考える。

問 駅前図書館は各地で成功例がある。人口9万人以上の入館者は260万人である。近代図書館は、全世界の情報バンクである。駅前の顔づくりと司書や図書館システムづくりによる入館者50万人の図書館によるまちづくりの考えは。

答 新図書館は中央図書館、生涯学習、市民交流、情報発信機能を持つ多機能型図書館である。駅前にぎわい創出による地域経済効果や地域コミュニティ活性化等、相乗効果を図る駅前交流センターとの複合施設を目指す。

●市民の自治意識の醸成をどのように進めていくのか。

問 自治基本条例との関わりについて。また、旧原町市において、まちづくり基本条例が施行されたが、自治意識が確立されたのか伺う。

答 19年度実施予定の仮称地域づくり協議会は、自治を醸成する場になると期待している。自治基本条例は、自治の理念を共有することで、市民の自治意識が醸成されると考えている。また、合併直前の条例なので、成果等について検証する時間が足りない。

●議会運営について

問 合併し1年と3ヶ月を迎えるが、議会運営における不幸な関係を市民の皆さんは望んでいない。そこで伺う。1つは、市長の議会運営の基本的スタンス、2つは、相互信

頼醸成を図る考えがあるのか、3つは、市長が考える車の両輪とはいかなるものか。

答 議会と長とは、市民の代表として対等の関係であり、信頼醸成は、適度な緊張感を保ちながら、自治体運営に当たることは必要であり、重要な責務を担っていることが、車の両輪であると考えている。

●国・県との信頼関係について

問 市長の国・県との信頼関係の判断基準は何に基づくものなのか。信頼関係は如何に醸成されると考えているのか伺う。

答 互いの真摯な協議による合意形成が基本になり、対応の如何により左右されことになると考えている。

●農業政策について

問 効率的・安定的農業を目指すとする国の計画に対応できない農村・農業者に、市が如何に対応していくのか考え方と取り組みについて伺う。

答 担い手が高齢化し、家族経営が崩れてきている中、国際化の時代にあつて競争できる農業の確立が避けられないと認識し、国の方向に沿った政策は一致するものがある。

●行財政改革について

問 経常経費の削減について

て、職員定数削減について積極的に進めるのか。起債の削減について見直しするのか伺う。

答 17年度決算で県内12市と比較して行政経費、職員数は悪くなっているが、いわば想定範囲内である。しかし、経費を削減することが合併効果の一つと捉えているので、財政支援措置期間内に、人件費、物件費など類似団体の数値を目標にしながら削減に取り組む考えである。



政友会

西 鉄治 議員

●道の駅条例制定について



問 専決処分は問題なしとする根拠は、議会としての継続

審査に値しないとするならば、今後同様の問題があらゆる政治の場で続出することになりはしないか、大変心配される。議会軽視と言わざるを得ない。議員として住民のために政治があるとするならば、批判せざるを得ない。議員側の提訴も当然であるが、ご所見を伺いたい。

答 気持ちの上では分らない訳ではないが、議会の審査のルールとしては、予算の議決をもって条例を進めると言う意志決定をしたと整理すべきだ。条例そのものを会期内に精査をして修正し、議決をしていただく事が望ましいと受け止めている。

問 道の駅周辺は車の混雑が激しい。老人ホーム、病院、中学校、警察署、消防署等、市街地への幹線道でもあり、問題だ。道の駅としての本来の姿として、相馬市・道の駅から、20キロであることを考慮すれば、議会は審査が必要と考える、市長は議会にもっと慎重に対処すべきではないか。

答 交通渋滞等の心配があり、地元と再三、意見交換・説明を行なってきた。国道6号線の渋滞緩和を図り、高見町交差点の大幅な改良、専用

問 高齢者の在宅療養支援診療所の開設について伺う。

答 利用の少ない施設や空き家などを利用して、今後地域の中で、ふれあいサロンの形態で実施できるよう関係者と協議しながら進めていきたい。

問 教育問題。いじめ対策について伺う。

答 アンケートや教育相談等を実施し、未然防止や早期発見、早期対応に努めている。

問 小学校低学年からの「英語」と「食育」について伺う。

答 低学年での英語活動は大切であるので検討していく。食育についても大切であり、指導の充実を図っていく。



清心会

白瀬 利夫 議員

●新市の一体化について



問 平成19年度の予算編成にあたっては、合併の理念、多くの市民の声に耳を傾けた予算編成が大切と考えるが、見解を伺う。

答 平成19年度は、合併2年目であり、本市の喫緊の課題である市民要望の強い産業振興による雇用の創出、子育て支援、市民の一体感の醸成、安心安全の確保など、持続可能なまちづくりの実現のため、優先的に予算の配分を行ったところである。

問 4つの大型公共事業のうち、複合型健康増進施設整備事業と文化公園整備事業はともに取りやめになった。その後の各地域における代替事業などの振興策について伺う。

答 複合型については、地元住民と市民の意向などを踏まえ牛島開発整備事業のあり方

を検討する。また文化公園については、小高区民の意向を十分に踏まえ、今後、検討していく。

問 合併直後から、合併してサービスが低下したとの捉え方が、行政サービスの一部における格差について、どのような現状認識をしているのか。

答 市民生活に影響を及ぼす事業については、合併後に一定の激変緩和期間を設けて対応する調整を行っているところである。また行政サービスの向上と住民負担の公平を原則としていることから、市民の理解を得ながら、一元化に向け速やかに対応してまいりたい。

問 相馬野馬追の執行体制を行政が主体となるのではなく、民間主体で執行すべきと考えるが。

答 現在、全国で行われている大きな祭りは地元町内会や商工会議所などが中心とした民間主体の実行委員会の開催が大半である。これからの状況を踏まえると、事務局を民間主体の組織にした方が柔軟な発想や対応で、誘客や地域の活性化に期待できるものと判断している。早急な体制変更は難しいので、将来に向け

て検討してまいりたい。

問 相馬野馬追の開催日は現在、7月23日から25日までとなっているが、平成8年より5月4日が毎年休日になったので、5月3日から5日までに変更すべきと考えるが。

答 近年の社会状況や出場者の要望を踏まえると、現在の開催日程について検討すべきと捉えているので、選択肢の一つとして検討していく。



南相馬クラブ

湊 清一 議員

●市長の政治姿勢について



問 相双の中核市である7万3千人の市民が思う、市

民が望む、市民が納得する市民のための市政、希望と夢のある合併効果の実感でできる骨太総合計画を策定し、新市に相應しい市勢伸展を中軸に据え市政運営をするべきと考えるが。

答 平成16年度策定の新市建設計画を基本に、人口や産業構造の推計を見直し、新たな本市の課題とする。計画策定の視点は、長期財政計画に基づき、持続可能な地域運営計画づくりを目指す。人口減少社会が非常に心配で、国の合計出生率が1.26人で、本市は1.7人の水準にある。出生と子育て環境の維持が大きな鍵で、雇用の場の創出が重要である。

基本構想の具現化のため、戦略的目標管理制度を活用した実効性のある計画を策定し、人口減少社会、危機管理社会、資源循環型社会、交流型社会等、現代に対応した課題解決の総合計画づくりをする。

●長期財政計画について

問 本市財政力指数は県内上位にあり、近隣市町村や夕張市との対比を市民に的確に情報提供し、常に説明することが重要と考えるが。

答 夕張市の財政破綻の報道を受け、本市と夕張市や県内